

世界の人びとのためのJICA基金とは

「世界の人びとのためのJICA基金」では、市民の方々に寄附を通じて国際協力に参加いただき、その寄附金を財源にNGO/CSOなどが行っている国際協力活動を支援しています。

寄附を通じて皆様の想いを途上国の人びとに届け、平和で豊かな世界の実現に向けてともに貢献していきたいと考えております。



2015年9月、ニューヨーク国連本部において「国連持続可能な開発サミット」が開催され、193の加盟国によって「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が全会一致で採択されました。このアジェンダでは、「誰一人取り残さない」ことを理念とし、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し持続可能な社会を実現するための重要な指針として、17の開発目標SDGs (Sustainable Development Goals) を設定しています。

SDGsを達成するためには、一人ひとりに焦点を当て、これを、貧しい国、中所得国、豊かな国のあらゆる国々で取り組むことが必要です。そのために、民間企業や市民社会の役割が益々高まり、あらゆるステークホルダーが連携すること(グローバル・パートナーシップ)も求められています。

JICAはSDGsの達成に貢献すべく、さまざまなステークホルダーとの連携を強化し活動に取り組んでいます。その一つが「世界の人びとのためのJICA基金」(JICA基金)です。

2023年度JICA基金活用事業実施団体の活動国

対象国×実施団体名

2023年度も、多くの個人や法人・団体の皆様の寄附により、途上国における貧困削減や生活改善、教育の機会の提供等に加え、日本国内の多文化共生社会の構築推進、外国人材受入れ支援に貢献する計32案件*を支援することができました。皆さまの温かい想いに深く感謝申し上げます。ニュースレター2024では2022年度、2023年度に採択した案件の中から15案件の活動をご紹介します！

ジンバブエ×特定非営利活動法人 しまなみアートファーム

トルコ×特定非営利活動法人 Piece of Syria

モンゴル×グール

バングラデシュ×NPO 法人 YOU&ME ファミリー

ラオス×特定非営利活動法人 Support for Woman's Happiness

日本×釧路自主夜間中学「くるかい」

日本×とちぎに夜間中学をつくり育てる会

日本×SHAKE★HOKKAIDO

ブラジル、パラグアイ×なつかしい未来協議会

グアテマラ×
NPO法人 幸縁

フィリピン×ブルードット

フィリピン×特定非営利活動法人 アジア・コミュニ
ティ・センター21

マダガスカル×カントリーパーク新浜

ケニア×特定非営利活動法人 Little Bees
International

ザンビア×特定非営利活動法人
礎の石孤児院

*2023年度に実施しました未掲載分案件は14ページをご参照ください。

JICA基金活用事業の紹介

(2022年度採択案件通常枠)

団体名: 特定非営利活動法人 アジア・コミュニティ・センター21 / 実施国: フィリピン

事業名: フィリピンの路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト (Project Bamboo) ~路上生活から起業家へ~

実施期間: 2023年1月~2024年1月

団体名: 特定非営利活動法人 礎の石孤児院 / 実施国: ザンビア

事業名: ザンビア共和国: AIDS 孤児のための初等教育及び給食支援

実施期間: 2022年12月~2023年4月、2023年10月~2024年2月

団体名: カントリーパーク新浜 (環境部) / 実施国: マダガスカル

事業名: マダガスカル東部沿岸農漁村における住民による魅力ある地域資源の持続可能な利活用の促進

実施期間: 2022年12月~2023年12月

団体名: 特定非営利活動法人 Little Bees International / 実施国: ケニア

事業名: 循環型社会形成を目指したリサイクルバックの製作による貧困層の女性と子どもたちのエンパワメント事業 (3年目)

実施期間: 2023年2月~2024年2月

2022年度採択案件チャレンジ枠

(チャレンジ枠は、応募時点で活動実績が2年未満の団体が対象)

団体名: 特定非営利活動法人 Piece of Syria / 実施国: トルコ

事業名: トルコ在住シリア難民向け補習校における教育の質向上プロジェクト

実施期間: 2022年12月~2023年11月

団体名: グール (モンゴル語で「橋」という意) / 実施国: モンゴル

事業名: モンゴルの子ども達の栄養改善・食育プロジェクト

実施期間: 2023年1月~2024年1月

団体名: 特定非営利活動法人 しまなみアートファーム / 実施国: ジンバブエ

事業名: ジンバブエにおける女性音楽教師育成を通じた女性の地位・収入向上を目指すプロジェクト

実施期間: 2022年11月~2023年9月、2023年10月~2024年3月

団体名: NPO法人 幸縁 / 実施国: グアテマラ

事業名: グアテマラで学習塾を開校し、学に志す子ども達の基礎学力を底上げする学習支援事業

実施期間: 2023年3月~2024年2月

2023年度採択案件*

(通常枠とチャレンジ枠は統合されました)

団体名:NPO 法人YOU&ME ファミリー／実施国:バングラデシュ

事業名:バングラデシュ学校における貧困層生徒職業訓練を持続可能な運営にするための収益化事業
実施期間:2023年8月～2024年8月

団体名:なつかしい未来協議会／実施国:ブラジル・パラグアイ

事業名:ブラジル・パラグアイ農業・林業・福祉・教育の連携による障がい者エンパワーメント
実施期間:2023年10月～2024年4月

団体名:特定非営利活動法人Support for Woman's Happiness / 実施国:ラオス

事業名:ラオス:少数民族女性と障がい女性を支える製品づくり 日本研修
実施期間:2023年9月～2024年1月

団体名:ブルドット／実施国:フィリピン

事業名:フィリピン 南レイテ州のリマサワ町(島)の貧困層に対する家庭養鶏導入による副収入の確保と教育
実施期間:2023/8/8～2024/8/7

団体名:釧路自主夜間中学「くるかい」／実施国:日本国内

事業名:自主夜間中学がつなぐ!「日本語学習支援の輪」育み事業～道東における外国人材受入支援強化のための日本語学習支援ボランティア養成・スキルアップ事業～
実施期間:2023/8/15～2024/3/31

団体名:とちぎに夜間中学をつくり育てる会／実施国:日本国内

事業名:ネパール人生徒のための学習用語辞典の刊行とその活用を通じた外国人生徒の学習環境の整備促進
実施期間:2023/9/1～2024/8/31

団体名:SHAKE★HOKKAIDO／実施国:日本国内

事業名:超広域自治体北海道における多文化共生支援者間のネットワーク形成—ボトムアップの取組創出に向けて
実施期間:2023/10/4～2024/2/29





通常枠:フィリピンの路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト(Project Bamboo)～路上生活から起業家へ～

活動国:フィリピン

団体名:[特定非営利活動法人 アジア・コミュニティ・センター21](#)



●活動報告

当団体は、現地団体チャイルドホープ・フィリピン財団とともに2018年から共同事業「Project Bamboo: 路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」に取り組み、マニラの路上で暮らす若者(年間約30人)を対象に、就職・起業のための知識や技術を学ぶための半年間の研修を提供しています。2023年1～12月にJICA基金からの支援を受けて、主に「若者起業グループ」(本研修の修了生のうち、起業を志す、またはすでに小規模ビジネスを運営している若者で構成)の組織化と活動の充実化に取り組みました。2022年6月に5人で活動を開始した本グループは、2023年12月末までにメンバー数が20人に増えました。1年間の活動で、計10回の定期的な研修・会合と1回のワークショップを実施するとともに、ビジネスの計画立案や運営への助言・指導、協力企業等とのネットワーク構築支援を行いました。

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

JICA基金からのご支援により、「若者起業グループ」では専門的な講師を定期的に招へいし、小規模ビジネスの運営という同じ志をもつ若者同士が経験を共有し、相互に学びあう機会を提供することができました。本グループを立ち上げる以前、若者たちはビジネスの課題について日常的に相談する相手や仲間がおらず、知識や技術を向上させる機会もありませんでした。そのため、せっかく立ち上げた小規模ビジネスが短期間で終了する事例が散見されていましたが、本グループでの活動を通じて2人の若者がビジネスの公的な運営許可を得るなど、若者たちのビジネスの継続や発展に寄与しています。温かいご支援をいただき、誠にありがとうございました。

露店の多い地区でマスクなどの雑貨を販売する若者起業グループ・メンバー(右端)



若者たちに話しかけるACC21代表理事(正面右)と事業担当者(正面左)



通常枠:ザンビア共和国:AIDS 孤児のための初等教育及び給食支援

活動国:ザンビア

団体名:[特定非営利活動法人 礎の石孤児院](#)



●活動報告

首都ルサカにあるスラムにて、非常な貧困の中に生きる、主に孤児(エイズ孤児を含む)を対象とした無料の小学校を運営し、1日2食の給食を提供している。2022年度、及び2023年度は、87人の子ども達を学校にて支援すると共に子ども達の家庭の問題にも取り組み、かつてのDV(ドメスティックバイオレンス)によって、精神に問題を抱える母親への経済、医療への支援、諸事情により収入が絶たれた家庭への食糧支援や家賃補助、また子育てやアルコール問題など様々な問題を抱える母親へのカウンセリングを行った。

子ども達は給食を非常に楽しみにしており、またそれを励みに通学をしている子どもも多く給食時には笑顔や歓声が溢れている。特に87人全員が最終試験をパスして新年より進級できる学力を持つに至ることができたのは快挙であった。2024年2月には、建設中だった中高等学校の一部の校舎が完成し、小学校を卒業した孤児達が、継続して学ぶことができるようになった。

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

皆様のご支援を頂くことによって、空腹に苦しみながら生きている親のいない多くの子ども達に食事を与え、そして貧困から抜け出すための教育を与えることが可能になりましたこと心から感謝申し上げます。

孤児達には、教育によって人生に変化をもたらし、自立した人生を豊かに生きて欲しいと願っていますが、家庭の問題、貧困と差別との闘いなど、乗り越えなければならない困難と、これからも向き合う長い道のりになります。どうか、子ども達がこれからも安心して、健やかに学びを継続していけるように、今後も引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

絵本の読み聞かせ



給食風景

通常枠：マダガスカル東部沿岸農漁村における住民による魅力ある地域資源の持続可能な利活用の促進

活動国：マダガスカル
団体名：カントリーパーク新浜



●活動報告

先行事業と同様に、マダガスカル東部タンブル新設保護区周辺地域の農漁村で水辺自然環境の保全と周辺農漁村での持続可能なくらしの両立のために、住民主体の地域案内イベント実施や観光促進を図ることで、地域の自然資源の価値や魅力が、住民、観光客、関係者に再認識されることを目指して活動しました。先行事業では、生き物調査や伝統的な暮らしの聞き取りに挑戦して、再発見した地域の魅力を地図にまとめ、住民対象の発表会を行いました。本事業では、住民自らが案内人（ガイド）となり、外部からの来訪者を対象にしたガイドツアーを実施できるよう、地域内外の講師を呼んで研修会の実施、案内看板やガイドプログラム・訪問スポットの整備、SNSによる外部発信を行いました。事業の最後に実施した文化体験祭りには、200人を超える人が参加しました。また、これらを通じて育まれた地域の人と連携した実施体制が受け皿となり、別ドナーによる調査や活動の支援を呼び込むことができました。

地域の伝統儀式“ツ
アブラ祭り”のガ
イドイベントの様子



活動推進に中心的に携わった住民と大学生は30名を超えた（プロジェクト終了時に授与した参加証明書をもって記念撮影）

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

本事業の活動サイトと当団体の拠点がある仙台市新浜地区は、砂浜海岸に隣接するという環境基盤とともに、稲作農家が多い、という共通点があります。私たちは、東日本大震災で被災した新浜で、地域在来の生物種の避難・繁殖場所となるビオトープを目指して、“農業不使用の米作り”をしています。現地でも私たちの「環境保全と食（人と生き物がともに健康であること）」に関する思いに共感した米農家が現れ、田んぼビオトープ作りを試行的に行き、地域の訪問スポットのひとつになっています。今のところ生育が順調で、“農業を使わずにいるのに雑草が少ない”と好評であるとのこと（実際は、代掻きを入念に行った結果のようですが）。収穫量がどうなったのか、報告を聞くことが楽しみです。この事業を通じて、私たちもマダガスカルのみなさんから学ぶところが多くありました。このような機会をいただき、ありがとうございました。



通常枠：循環型社会形成を目指したリサイクルバックの製作による貧困層の女性と子どもたちのエンパワーメント事業（3年目）

活動国：ケニア
団体名：特定非営利活動法人 Little Bees International



●活動報告

SDG 1・5・12の達成を目標に、HIV陽性かつシングルマザーの女性たちを中心にした女性グループによる循環型社会形成と女性のエンパワーメント・自立のための収入向上の一環として、リサイクル・エコバックの製作を行っています。バックには、環境への配慮（3Rや“木を植えよう”、“Mottainai”）や教育の大切さ、HIVの予防啓発を呼び掛けるメッセージも付けられています。ケニアで30年以上の実績のある日本のNP0アフリカ児童教育基金の会とも協働して裁縫研修も泊まり込みで実施。女性たちの横のつながりも深めながら、シンボルとなるTシャツも作成して和気あいあいとした雰囲気の下、脆弱な社会環境のもとで生きる女性たちの絆づくりにもつながっています。

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

忍耐強く本活動を温かく見守ってくださった多くの関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。寄付者の方からのご支援でJICAとの連携事業を実施できたことは、女性グループにとっても大きな安心感とモチベーションにつながったと感謝しております。日本での活動へのご理解と支援のすそ野を広げるうえでも大きな信頼へとつながりました。助成活動を始めてから女性グループもその輪を広げるなど順調に成長を重ねて参りましたが、この3年間のご支援によって築かれた成果を基にさらなる活動の発展と飛躍を目指して、皆と頑張る参ります。本当にこれまでの御サポート、ありがとうございました。



製作しているデニムの生地を再利用したアドボカシーメッセージ付きリサイクルバック／作業中の女性グループ



チャレンジ枠:トルコ在住シリア難民向け補習校における教育の質向上プロジェクト

活動国:トルコ

団体名:[特定非営利活動法人 Piece of Syria](#)



●活動報告

2011年から戦争が続くシリアでは、国民の約半数が難民・国内避難民状態となり、かつては高い水準を誇っていた初等教育を受けられない世代が増えていることが憂慮されています。弊会は、シリアでの幼稚園支援と、トルコにおけるシリア難民向け補習校の運営支援を実施してきました。今回の事業では、教育の質向上を目指した日本人専門家による技術提供と、シリア人スタッフが日本で教育事例を学ぶ機会を創りました。約半月の訪日研修において、日本の幼稚園、小中学校で先生たちと対話をしながら設備や授業の工夫を見学、教育NP0では地域コミュニティの巻き込みの事例などを教えていただきました。大学では、教員向け研修や心のケアの手法を学びました。訪日研修後は、トルコとシリアの教員たちに日本での学びを共有し、現場で応用していく方法を模索しながら実行を進めています。

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

私たちと共に活動するシリア人スタッフ達は、「日本が戦後の焼け野原から復興を遂げた背景には、教育が果たした役割が大きい」ということを知り、そんな日本の経験から学びたい、という強い気持ちを持っています。今回念願の初来日を果たしたシリア人スタッフは、日本の教育事例を学ぶ中で、感動のあまり説明の通訳を止めさせて「頭の整理が追い付かないから、整理させてほしい」ということも一度や二度ではありませんでした。そんな学びをシリア・トルコの現場に持ち帰った結果、体験型学習を取り入れたり、生徒の自主性を促す教育アプローチの試みがなされたりしています。素晴らしい機会を与えてくださったご支援者様に、心より感謝申し上げます。



明治大学・岸准教授のゼミを訪問。アートや身体表現を使ったセラピーについて学びました



チャレンジ枠:モンゴルの子どもの栄養改善・食育プロジェクト

活動国:モンゴル

団体名:グループ



●活動報告

モンゴルの食生活は伝統的に肉が中心で野菜摂取不足が課題である。健康志向が高まる中、栄養知識の必要性を感じる現地NGOからの要望に応え、以下の活動を実施した。目標:モンゴル子育て世代が、栄養バランスの整った食事を提供できるようになる。活動:オンライン及び対面レッスンを全12回実施、計18名が修了証授与された。テーマは食育を中心に、栄養バランスや衛生管理、生活習慣、実践的なレシピ、料理実習など。栄養に関する基礎情報のみならず、食生活全般が健康増進に重要であることが大きな学びだという声が多くあった。また受講生らはその後、家庭や職場で適宜実践する他、給食サービスの内容を改善して利用者に好評を得ている受講生団体もあることから、活動には一定の成果があったと考える。

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

肉中心の食生活で野菜や栄養バランスについての意識があまりないモンゴルの子育て世代からの「日本の健康の秘訣を知りたい!」という声から本活動は始まりました。子どもの健康を願う気持ちはどの国も同じ、学ぶ意欲や関心はとて高く、特に対面レッスンでは質疑応答が絶えず、ニーズと関心の高さを感じました。独自で給食サービスを改善するなど、現地の自立発展的な活動にも繋がり、手応えを感じる事例もありました。今後は、より現地の状況に即した食育活動の実践を目指し、その活動案や基礎教材づくりをしながら、地域に根ざした活動を関係者と協力して行っていきたいと考えています。ご支援を感謝すると共に、今後も応援いただけますと幸いです。

現地料理レッスンの様子



現地栄養座学レッスンの様子



チャレンジ枠：ジンバブエにおける女性音楽教師育成を通じた女性の地位・収入向上を目指すプロジェクト

活動国：ジンバブエ

団体名：[特定非営利活動法人しまなみアートファーム](#)



●活動報告

ジンバブエにおける女性音楽教師育成を通じた女性の地位・収入向上を目指すプロジェクトとして、2021年8月より活動に取り組んでいます。日本で不要になった鍵盤ハーモニカを活用し、ジンバブエで音楽教師を目指す女性を対象に、西洋音楽の基礎、演奏技術、音楽教授法の研修を継続しています。2023年11月には第1期生8名を輩出し、修了式・コンサートは研修生の家族や関係者も参加し大盛況でした。

指導者育成と指導マニュアル作成を重点的に実施し、西洋音楽の基礎だけでなく、ジンバブエの民謡や国歌などを教材として取り入れました。間違いやすいポイントなどにも言及することで、現地事情に沿った実践的な指導マニュアルを作成することができ、現地の指導者2名が研修を運営できるまでに育ちました。

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

世界の人びとのためのJICA基金へ寄附をしてくださった皆様、私たちの活動を支援していただきありがとうございます。皆様のご支援のおかげで、日本で不要になった鍵盤ハーモニカをジンバブエに届け、音楽教師を目指す女性が実際に楽器に触れて、音楽を学ぶ機会を提供することができています。ゆくゆくは女性音楽教師として自立し収入を得ながら、小学校で子どもたちに鍵盤ハーモニカを活用した音楽の授業を実施し、子どもたちも楽器に触れて音楽を学ぶ機会を提供することができます。今後ともわれわれの活動を見守り、皆様に応援していただけますと幸いです。

Midland State University
学生への研修



コンサートの様子



チャレンジ枠：グアテマラで学習塾を開校し、学に志す子ども達の基礎学力を底上げする学習支援事業

活動国：グアテマラ

団体名：[NPO法人 幸縁](#)



●活動報告

中米グアテマラのソロラ県サンティアゴ・アティトラン市にて、現地の小学生を対象とした活動地初の学習塾を開校しました。代表が4か月間現地に滞在し、グアテマラ人スタッフと共に準備を進めていきました。活動地では、「学習塾」という概念がなく、特に入塾生を募集する際は難しさを感じましたが、日本の団体であることの強みを生かして、基礎学力強化の手法や日本の皆さんからご寄附いただいた鍵盤ハーモニカを活用するなどして、徐々に活動地での認知度を広めていきました。開校当初、たし算の100ます計算で10分以上かかっていた小学4年生のある子供が、半年後には2分14秒で解けるようになるなど、著しい学習効果が得られています。2024年4月現在は、講師5名、塾生18名で活動しています。今後は、この塾で結果が出た学習方法を現地の小学校へ共有していくなど、公教育との連携も目指していく予定です。

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

私たちが長年夢見てきた「未来のリーダー育成のための学習塾開校」という大きな挑戦は、このJICA基金によるサポートがなければ、決して実現することができませんでした。4か月間で立ち上げの準備を行い、その後、現地スタッフのみで現場を回すことができたのは、JICA基金で現地スタッフの人件費を賄えたことが大きな成功の鍵となった認識しています。この学習塾で学んでいる子供たちは、愛情と情熱をもった現地スタッフのもとで自分たちが日々成長していることを実感しながら、学ぶことに喜びを感じています。今後も、この活動を継続して行っていけるように、現地スタッフと協力しながら、グアテマラの子どもたちが確かな学びを得られる場所の提供をまいります。私たちの活動を応援していただき、誠にありがとうございました。



現地学習塾算数クラスの様子。
たし算の100ます計算のタイム
トライアル中。

バングラデシュ学校における貧困層生徒職業訓練を持続可能な運営にするための収益化事業



活動国:バングラデシュ

団体名:[NPO 法人YOU&ME ファミリー](#)



●活動報告

私たちYOU&MEファミリーがバングラデシュ人と共に設立した現地学校「YOU&ME インターナショナルスクール」は、現在生徒数約280名、教師13名、スタッフ3名で学校運営をしています。しかし同校では、事情により就学を続けられない生徒が一定数存在し、この社会課題を解決すべく、貧困層生徒が社会的・経済的に自立できるよう職業訓練クラス（パソコン、洋裁）を実施しています。本事業では、この職業訓練クラスを持続可能な活動にするため現地の人々の力で運営できるよう、収益化プロジェクトを開始しました。パソコンクラスでは子どもクラスに加えて夜間に地域の大人へ向けたクラスの開講、洋裁クラスでは女性民族衣装や学校制服などの製作販売に力を注いでいます。収益化は5年計画とし、4年目から黒字化し5年間で安定した黒字経営を目指しています。次年度は、人気の高い商品の販売に力を入れる、オンライン販売にもチャレンジする、などさらに発展させていきたいです。

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

近年経済発展が目覚ましいバングラデシュですが、貧困層を中心に、児童婚など多くの問題が今も山積しています。現地支援校での職業訓練クラスは、子どもたちが将来において自分の判断で人生の選択をできるためのものであり、生徒や保護者から好評を得ています。実際、このクラスを修了した卒業生は、洋裁クラスからは近隣縫製工場にリーダー格として就職したり、自分で店を開業した者もあり、パソコンクラスからは今後、PC技術を活かした地元企業への事務職への就職が期待されています。本年度開始した収益化事業が5年後には安定した黒字になり、この職業訓練クラスを現地の力で運営できることを目指しています。どうぞ皆様、今後ともご支援いただけましたら幸いです。

洋裁クラス受講生徒



パソコンクラス受講生徒



ブラジル・パラグアイ農業・林業・福祉・教育の連携による障がい者エンパワーメント

活動国:ブラジル、パラグアイ

団体名:[なつかしい未来協議会](#)



●活動報告

ブラジル連邦共和国ゴイアニア、およびパラグアイ共和国アスンシオンを中心に実施された本事業では、竹の活用による持続可能な開発に関する意見交換や可能性の調査、および障害者・社会的弱者のエンパワーメントに取り組みました。具体的には、大学における講義や経験交流を通じた意見交換、現地の環境に適した竹の応用実現のための竹林の視察と管理、竹を使った製品制作といった活動の実施のほか、竹紙工場設置プロジェクトや障害者の経済的自立を目指した竹材工としての竹の使用に関するトレーニングプロジェクトとの連携など、幅を広く活動しました。

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

「なつかしい未来協議会」が拠点を置く新潟県・佐渡は、古くから良質な竹の産地として知られ、竹細工が有名です。持続可能な社会の実現を掲げる現代社会において、私たちは“竹”に大きな可能性が秘められていると考えています。なぜなら、竹には食材として、燃料として、資材として活用することのできるマルチな才能が備わっているからです。本活動を経て様々な団体、人々と交流する中で竹の持つ可能性を強く再認識できたことに加え、社会的弱者の支援の一環としても活用することができるなど、竹の持つ新たな可能性や試みについても考えるきっかけとなりました。今後は、各機関との横断的な関わりによって築いた関係性のもと、将来的なプロジェクトの実現に向けて活動していきます。JICA基金を通じた多大なご支援、誠にありがとうございました。



竹楽器の制作

ラオス:少数民族女性と障がい女性を支える製品づくり日本研修

活動国:ラオス

団体名:特定非営利活動法人Support for Woman's Happiness



●活動報告

障がい作業所をラオスの障がい当事者と開所して7年目、初めての来日研修となりました。ものづくりの視察、各福祉施設の見学、バリアフリーの体験など日本に来ないと体験できないことが沢山あり、その一つ一つが障がい当事者にとって大きな経験になりました。未来のラオスに必要な医療福祉や障がい者の働き方などヒントも得ることができました。

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

国外に出ることが難しいラオスの障がい当事者にこうして日本研修を受けさせることができ、ラオス側も日本側も嬉しく思っています。一生の思い出になると同時に、ラオスで待っている仲間にも体験してほしい。そのために自分たちがもっと力をつけなくては！と想いを新たにしたのではないかと思います。車椅子だからとか、ラオスの福祉が整っていないからとかできない理由を考えるのではなく前を見る強さと自分で選ぶ意思を育む為に研修は有効だと感じました。ここからラオスの福祉が変わっていくように、引き続き指導を続けたいと思います。ありがとうございました。

活動報告会



旭川 車椅子ラグビー



フィリピン 南レイテ州のリマサワ町(島)の貧困層に対する家庭養鶏導入による副収入の確保と教育

活動国:フィリピン

団体名:ブルドット



●活動報告

南レイテ州・リマサワ町は、政府の定める貧困ラインを大幅に下回る経済的に脆弱な地域であり、更に気候変動の影響で生業の漁業だけでは生活が困難になりつつあります。この課題を捉え、受益者の皆様が日常生活の範囲内で運営可能な副業の構築を目指し、各自の裏庭でブロイラーの鶏を飼育する小規模な「家庭養鶏」の導入支援を行いました。地元町役場と連携し、養鶏技術の普及、金融教育、販路開拓支援を行った結果、様々な困難もあったものの、養鶏を通じた売上の一部を利用して既に4回目の再投資を受益者の皆様が実施しており、目標の月5,000円の副収入を継続的に得ることができるようになりました。2024年3月には、州政府に副業導入の成功事例として紹介されました。

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

支援を通じて得ることができるようになった副収入を、子どもが学校に通うための教育費として活用しているなど、嬉しい声を頂いております。受益者の皆様が自信を持って生き活きと養鶏事業を継続してくださっていることがとても嬉しく、JICA基金の伴走支援を通じ受益者の皆様とのコミュニケーションの取り方を学べたことも団体の成長に繋がりました。今後も養鶏を継続できるように、受益者グループ内で貯蓄貸付を行う互助機能の強化支援に発展させていきたいと考えております。また、本事業で得た知見を活かし、他の村で小規模養豚を導入する事業を始めることもできています。このような機会を頂き、誠にありがとうございました。

受益者グループのみなさんとの写真



家庭養鶏の様子



自主夜間中学がつなく！「日本語学習支援の輪」育み事業 ～道東における外国人材受入支援強化のための日本語学 習支援ボランティア養成・スキルアップ事業～

活動国：日本

団体名：釧路自主夜間中学「くるかい」



●活動報告

近年、当団体の活動拠点である釧路市を含む道東地域（北海道の東側）において、在住外国人が増加しています。それとともに日本語学習の機会を求める在住外国人からの相談も増えてきましたが、当団体のみならず道東地域での日本語学習支援に適切に対応できる人材が不足していたため、JICA基金を活用し、専門的な知見・経験を有する講師陣による「日本語学習支援者養成講座」を2回開催しました。その結果、道東地域の2市8町から、幅広い年代の、延べ99名もの参加がありました。また、同基金により、日本語学習支援教材の拡充と多言語音声翻訳機の導入を行うことができ、在住外国人に対する学習支援の質の向上も図ることができました。

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

皆様のご寄附により、道東地域で不足していた外国人材の日本語学習を支援できる人材を、この度の養成講座を通じ、一定数、養成・育成することができました。今後は今回参加して下さった方々が、自らの生活圏において、日本語学習支援活動をはじめとする草の根レベルでの多文化共生推進に貢献していかれることを期待しています。また、当団体が支援を開始した2年前には日本語での意思疎通や会話も困難だった中国人中学生（当時中1）が、学習支援教材の拡充なども手助けとなり、おかげさまで、この春（3月）、高校受験に見事合格することができました。当団体は年齢・国籍・学歴を問わず、引き続き「学び（なおい）」の機会を求める方への学習支援を行っていく所存ですので、今後とも応援をよろしくお願いいたします。



日本語学習支援者による、夜間（放課後）授業の様子



日本人向け日本語学習支援者スキルアップ講座の様子



ネパール人生徒のための学習用語辞典の刊行とその活用を通じた外国人生徒の学習環境の整備促進

活動国：日本

団体名：とちぎに夜間中学をつくり育てる会

●活動報告

「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」は、全国的にネパール人児童生徒が増加していることを踏まえ、2023年度「ネパール人生徒のための学習用語辞典の刊行とその活用を通じた外国人生徒の学習環境の整備促進」事業に取り組み、2024年3月に『中学教科単語帳』（日本語⇒ネパール語）を1,000部発行しました。この単語帳は、中学校の教科書から使用頻度が高い単語や難しい単語を抽出し、ネパール語に翻訳したものです。全国の公立夜間中学44校（300人を超えるネパール人生徒が学習）に無料配布しました。4月20日に横浜で開催した発行記念祝賀会には、駐日ネパール特命全権大使にもご出席いただきました。5月には「日本語教育を考える集い」（東京開催）で発行報告をすることとなっています。その他、様々な方法で、普及・活用に努めていきます。

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

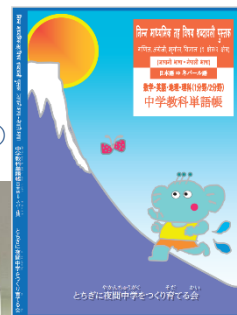
日本語を母語としない外国にルーツを持つ児童生徒の日本語学習と教科学習の両方を効果的に応援するには、学習用語に特化した分かりやすい辞典が必須であると考えており、今回、JICA基金事業として、ネパール語単語帳の発行に取り組めたことを大変嬉しく思います。ネパール人児童生徒の学習支援に取り組んでいる学校や市民団体の関係者から連日のように単語帳入手希望の連絡が来ています。2つだけ紹介します。

●一昨日、届きました！すごくよくできていますね！！

もし、可能であれば、今年度でネパール人の生徒さんが全校37人となる高校にも届けたいです。（大学教員）

●（夜間中学で）日本語を教える私にとっても、どんなふうに教えていこうかと思いつめがらせていた時だったので、天の声が届いたかのような不思議な気持ちでネパール語学習用語辞典を手に入りました。

『中学教科単語帳』（日本語⇒ネパール語）



4月20日 第2回勉強会・交流会・発行記念祝賀会の様子



超広域自治体北海道における多文化共生支援者間のネットワーク形成ーボトムアップの取組創出に向けて

活動国：日本
団体名：[SHAKE★HOKKAIDO](#)



●活動報告

SHAKE★HOKKAIDOは、超広域・超散在地域である北海道において、各地域で日本語学習支援、多文化共生支援に取り組む人たちに最新の情報を伝えるとともに、支援者の間にゆるやかなつながりを構築することを目指しシンポジウムを実施した。シンポジウムは地域の方がアクセスしやすいようオンラインで配信したが、同時に参加者間の交流のため道内主要5都市にサテライト会場を設置した。また、参加者が楽しみながら多文化共生を考えることができるよう、協賛企業の協力のもと抽選企画を実施したり、登壇団体のネームカードを配布したりした。当日は11名の行政・企業・支援団体関係者が登壇し、オンライン・サテライト会場あわせて211名が参加した。会場での交流を契機に新たに支援活動を始めた参加者も見られた。

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

この度は私たちの活動を支援していただきありがとうございました。貴重なご支援により、非常に充実したシンポジウムを行うことができました。行政関係者、外国人受け入れ企業、道内外各地域で活躍する支援者に、ただ登壇をお願いするだけでなく、現場の視察や研究会を重ねるとともに発表内容を検討することで、多文化化する北海道の実際を伝えるシンポジウムを作りあげることができました。また、充実した支援のおかげで、道内5都市に設置したサテライト会場に札幌から日本語教育の専門家を派遣することができ、現地での情報交換、学習支援における悩み相談などを行うこともできました。本シンポジウムを契機に北海道でボトムアップの支援活動が活性化するよう、今後もフォローアップの取り組みを続けていきます。



帯広サテライト会場の様子



参加者に郵送したMAPとネームカード

JICA基金2023年度 収支報告

2023年度（令和5年度）寄附金受入実績等			2023年度（令和5年度）寄附金使用実績	
	件数	金額（円）		金額（円）
前年度繰越（事業費） 充当分		1,526,475	配分事業（32案件／伴走支援業務 ／募集説明会謝金含む）	21,133,323
個人	538	6,640,000		
法人・団体	59	15,145,387	運営費留保分 (寄附金収入額の10%)	2,178,539
合計		23,311,862	合計	23,311,862

* 2023年度に活動資金として寄附金を活用したのは32案件。このうち本ニューズレター2024に活動報告を掲載しているのは2022年度採択した8案件、2023年度採択した7案件 * 2022年度2023年度連続採択2案件含む。

多くの皆様からのご支援に心より感謝申し上げます！

【参考】2023年度採択案件一覧（ニュースレター未掲載分）*次回掲載予定

団体名	活動地	事業名
Inna Project	ガーナ	持続可能な自給自足型の村を作る「グリーンナプロジェクト(Green×Inna Project)
N P O法人Foot Roots	フィリピン	フィリピン・セブ島のモバイルリサイクルステーションへの挑戦
N P O法人結び手	インド	インド国「裁縫職業訓練を通じた貧困女性の収入改善・自立支援・コミュニティ支援プログラム」
アジアなりわいネット	インドネシア	インドネシア・スンビラン諸島における漁具の技術改良による海岸プラスチック削減と水産資源の回復促進プロジェクト
こおりやま日本語教室	日本	こおりやまプレスクールモデル事業
モザンビークの新しい教育を支援する会	モザンビーク	モザンビーク国マプトにおける合理的配慮のある幼稚園の設立・運営
一般社団法人にほんごさぽーと北海道	日本	散在する在留外国人と地域をつなぐ日本語支援事業
一般社団法人光 J S みらい	日本	日本語学習者と地域をつなぐ、多文化共生社会づくりプロジェクト
一般社団法人福岡国際市民協会	日本	福岡国際子ども食堂&居場所
特定非営利活動法人 S E W A	日本	来日直後の日本語がおぼつかない在日ネパール人児童に対する効果的な学習支援体制構築プロジェクト
特定非営利活動法人 Health Equity Research Institute	バングラデシュ	バングラデシュのナライルにおける、高血圧コーディネーター育成の為のモデル構築事業
SHIZULATINOS	日本	みらいインバスター外国にルーツを持つ生徒のための進路サポート-
一般社団法人 F C Non o	インド	インド・ビハール州におけるサッカー指導、教育を通じた少年少女の成長支援事業

各実施団体のより詳しい事業内容は、下記サイトの「事業完了報告書」にあります。ぜひそちらもご覧ください！



世界の人びとのためのJICA基金活用事業
 -NGO-JICA協働事業：国際協力へのはじめの一步-

<https://www.jica.go.jp/Resource/partner/private/kifu/09.html>

2023年度ご寄附くださいました法人・団体(50音順)

*公表承認いただいた法人・団体のみ

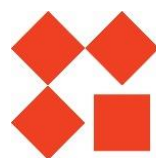
SUNTORY

サントリービバレッジソリューション株式会社

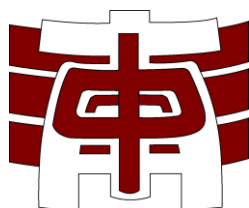


International School
of the Sacred Heart

DyDo



八十二銀行



みよし市立南中学校



ゆうちょ銀行



リソナグループ

その他、多くの個人、法人・団体の皆様にご寄附いただきました。
皆様の温かなご支援に関係者一同心より御礼申し上げます。



世界の人びとのためのJICA基金 ニュースレター2024
発行：独立行政法人国際協力機構 国内事業部市民参加推進課
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1 竹橋合同ビル
TEL:0800-100-5931 (寄附専用ダイヤル)
<https://www.jica.go.jp/partner/private/kifu/index.html>